

姿を変え、
価値をつなぐ銅一般社団法人日本銅センター会長
三井金属株式会社代表取締役社長

池信 省爾



当社が大切にしてきたのは、「探索精神」と「多様な技術の融合」です。三十を超える元素を扱ってきた技術、設備、人財を土台に、素材と機能を技術でつなぎ、時代が求める商品に形にできました。銅は単独でも力を発揮しますが、ほかの素材や技術と組み合わせることで、新しい機能を生み出します。その懐の深さこそ、銅という金属の魅力だと感じています。

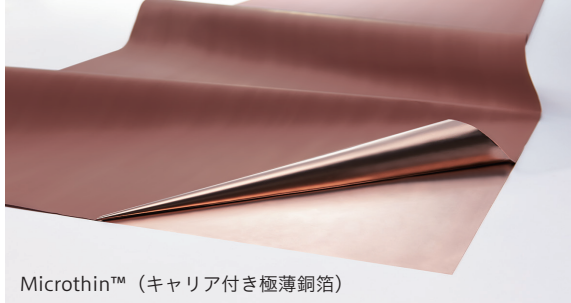
また、銅を含む製錬ネットワークの強化は、リサイクルの可能性も広げています。銅、亜鉛、鉛、金、銀に加え、錫、アンチモン、ビスマスなど、多様な有価金属の回収にもつながっています。限りある資源を有効に使い、金属の拡散を防ぎ、循環型社会を支えていくことは、素材産業に携わる当社が果たすべき役割の一つです。銅は、使われて終わる素材ではなく、社会の中で幾度も価値を発揮し得る素材でもあります。

外部環境は、これからも絶えず移り変わっていくでしょう。

だからこそ、変化に振り回されることなく、柔軟に向き合いながら、中長期の視点で銅の可能性を見つめ続けたいと考えています。長い歴史を重ねながら、なお新しい時代を支える力を秘めた銅。その可能性を一つひとつ確かな価値へとつなぎ、銅とともに、次の時代を歩んでまいります。



電気銅



Microthin™ (キャリア付き極薄銅箔)



VSP™ (高周波基板用電解銅箔)

私が三井金属に入社したきっかけの一つは、先輩から「自由な社風で、何でも言える会社」と聞いたことでした。仕事を重ねるなかで、その言葉は単なる雰囲気ではなく、新しいものを生み出す土壌であると感じてきました。私の銅との主な関わりは銅箔事業でした。上尾事業所長として、お客様のご要望にお応えしながら、銅という素材が、厚みや形、機能を変えて、新たな価値を生み出していく姿を間近に見ることができ、私にとって忘れがたい経験となっています。

銅は、古くから人の暮らしとともにあった金属であり、今日では現代社会の基盤を支える素材でもあります。電気と熱をよく伝え、加工しやすいという特性は、情報通信や半導体、データセンタ、モビリティ、再生可能エネルギーなど、幅広い分野で活かされています。社会の電化やデジタル化が進むほど、銅に求められる役割はさらに広がっていくように思います。

その広がりをよく映し出すものの一つが、銅箔です。電子機器の高性能化が進むにつれ、薄く、均一で、信頼性の高い銅箔への要求は年々高まっています。容易なことではありませんが、高い要求に真摯に応えようとする過程でこそ、素材を扱う当社の技術は磨かれてきました。

4・5

3

2

カパーロマン
姿を変え、価値をつなぐ銅

ルポルターージュ

武蔵一宮 氷川神社
銅板屋根葺き替え工事

ルポルターージュ

タツタ電線株式会社
銅の技術でインフラを支え、
最先端を創る

8・9

6・7

ルポルターージュ

株式会社コロナ
「今の快適」に、満足しない。

カパーワールド

松屋製菓株式会社
伊勢の館は、銅釜で生まれる

12・13

10・11

ルポルターージュ

式年遷宮記念せんぐう館
伊勢神宮を支える銅の秘密

カパーピックス

株式会社関水金属
手のひらに乗る列車は、
銅の回路で線路を走る

18・19 16・17 14・15

ルポルターージュ

株式会社LIXIL

カパーワールド

東京藝術大学／中林忠良名誉教授

銅センターニュース&トピックス

アースデイ in 桐生／学都「仙台・
宮城」サイエンス・デイ／ほか